

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■152■

しのぶ毛の国「子塚」。

上毛かるたのこの札をきつけに、当地が「東日本最大の古墳県」であり、日本一の「埴輪王国」でもあることを知った。

その時、少年時代の夢が考古学者だったことをふと思い出した。憧れの原点は、吉村作治早稲田大名誉教授のエジプトでの発掘作業に密着したテレビ番組だ。いつもドキドキしながら見ていた。

年少の自分に手を引かれるように、県立歴史博物館を訪れた。埴輪として日本初の国宝である「埴甲の武人」の17年ぶりの里帰りに立ち会えた

群馬が教えてくれること

新しい環境、古い記憶

る彩色の鮮やかさは古墳時代への先入観を正してくれた。

また、企画展は、金井遺跡群などの榛名山噴火関連遺跡が「日本のポンペイ」とも呼ばれることを教えてくれた。イタリアのことは知っていたのに、日本の出来事に無知な自分を恥じた。被災直

のは望外の喜びだ。立体的で精巧に作られたその姿を見ると、映画「大魔神」のモデルであることがうなずけた。復元後の白を基調に赤と灰からな

後の状態で見つかった甲冑をまとう壮年男性について、若狭徹明治大教授は、この地の王であり、噴火時、共同体にあだな

す山の神に武装して対峙していたと考える。なんと雄々しい姿だろう。他にも胸を打たれたのは、被災した人々がさまざま復興に尽力したこと

だ。金井遺跡群からは当時の主要な農耕・移動・運搬手段であった馬の生産を表す遺物が見つかった

ているが、吾妻川対岸の子持山山麓一帯の遺跡は、その後、より大規模に馬の生産が行われたことを示す。当時の人々は、主要な馬の生産地域としての役割を果たすため、被災後の厳しい状況に立ち向かったのだ。

同時に訪問した綿貫観音山古墳については、歴史博物館に展示されている国宝の出土品の多彩さや優れた遺存状態に目を奪われただけでなく、石室内部の厳肅さがエジプト観光の際のピラミッドを思い起こさせた。石室

群馬の新しい環境が、忘れていた古い記憶を呼び覚まし、その記憶が新天地に対する理解を深める機会をくれた。こんな経験は初めて。これだけでも当地に来て良かったと言える。着任して3か月足らず、まだまだ教えてもらえることばかりだ。この幸運に感謝しなければ。

時最先端の石室構築・巨石運搬技術は、畿内のヤマト王権からもたらされたと考えられ、当地がいかに重視されていたかというところだろう。

上野 陽一(うのの・よういち) 1979年生まれ。北海道出身。一橋大商学研究科修士課程修了。2003年日本銀行入行。名古屋支店営業課長などを経て、26年6月から現職。



上野 陽一(うのの・よういち) 1979年生まれ。北海道出身。一橋大商学研究科修士課程修了。2003年日本銀行入行。名古屋支店営業課長などを経て、26年6月から現職。